

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2015年1月）

目 次

内 政

- ◆次期総選挙に関するフィツォ首相発言 2
- ◆政党支持率調査結果 2

外 政

- ◆グルヴァーチ国防相の米国訪問 2
- ◆国防省による米国製軍用ヘリコプター購入の動き 2
- ◆スロバキア・チェコ・オーストリア首相会合 3
- ◆ライチャーク外相の米国訪問 3

社 会

- ◆犯罪発生数の減少 3

経 済

- ◆フォルクスワーゲンによる新工場の建設計画 4
- ◆中国系銀行の支店開設を巡る動き 4
- ◆モホウツェ原発新規原子炉の建設状況 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（1月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆次期総選挙に関するフィツォ首相発言（1月12日付プラウダ紙）

フィツォ首相は、繰り上げ選挙を行う考えがないことを明らかにした。「普通の人々・独立した人達」のマトヴィチ党首は、本年秋に繰り上げ総選挙が実施されるとの見解を示していたが、フィツォ首相は、「どこから出た話なのか自分にはわからず、繰り上げ選挙を行う理由は何ら見当たらない」と述べた。同首相によると、政権与党Smerは2012年の選挙において、有権者から4年間の信任を得ており、2016年3月までの任期を全うする。同首相は、選挙後のキリスト教民主運動（KDH）との連立政権形成の可能性については見解を明らかにしなかったが、KDHが内部の結束の強い安定した政党であるとの認識を示している。

◆政党支持率調査結果（1月23日）

世論調査機関 Polis が1月の政党支持率調査の結果を公表した。政権与党 Smer の予想獲得議席数は68議席で過半数の75議席に満たないため、10議席の獲得が予想される民族主義政党 SNS との連立政権の可能性が指摘されている。

政党	支持率
Smer（方向）	37.4%
Siet（ネットワーク）	11.3%
KDH（キリスト教民主運動）	7.9%
Most-Hid（架け橋）	7.9%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	7.7%
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	5.7%
SNS（スロバキア国民党）	5.7%

外 政

◆グルヴァーチ国防相の米国訪問（1月7日）

グルヴァーチ国防相は米国を訪問し、ヘーゲル米国防長官と会談を行った。グルヴァーチ国防相は、「米国は我々の戦略的パートナーであり、米国との軍事協力は、スロバキア軍の近代化に貢献した。例えば、装甲車両、無線通信、2千万ドル以上に相当する軍事技術等が挙げられる。この援助は二国間協力における歴史的な成果である」と述べた。グルヴァーチ国防相は、インディアナ州兵関係者とも会談を行った。マクシム・スロバキア軍参謀長によると、インディアナ州兵との協力関係は、すでに20年に及び、非常に良好なレベルを維持している。

◆国防省による米国製軍用ヘリコプター購入の動き（1月13日付スメ紙）

グルヴァーチ国防相の米国訪問に際し、スロバキアは、米国の対外軍事援助プ

プログラム（FMS）を通じた軍用ヘリコプターSikorsky UH-60 Black Hawk購入の提案を受けた。FMSは他国に軍事技術購入の機会を提供するプログラムであり、NATO加盟国に自動的に適用されるため、スロバキア及びその他の加盟国は米軍と同じ軍事技術を獲得できる。購入については、政府及び安全保障評議会の決定が必要となる。新たなヘリコプターは、軍が現在保有している旧ソ連製Mi-17に代わるものとなり、6年間かけて交換する計画である。グルヴァーチ国防相は、9機の軍用ヘリコプターを訓練とメンテナンスも含めて3億ユーロで購入し、最初の2機は本年末までに購入する見込みであると説明している。

◆スロバキア・チェコ・オーストリア首相会合（1月29日）

フィツォ首相は、チェコの小都市スラフコフ・ウ・ブルナ（独名アウステルリッツ）において開催されたソボトカ・チェコ首相及びファイマン・オーストリア首相との会合に出席した。3カ国の首相は、EU基金の専門家会合を開催し、基金活用に伴う手続の簡素化に向けた提案を行うべきという点で合意した。また、中欧地域のガス市場の更なる連携に向けた提案も行われた。フィツォ首相は、「ウクライナのガス・トランジットが停止されたならば、スロバキアは数億ユーロを失うことになる。そのため、欧州共通の利益と各国の利益を擦り合わせる専門家協議の実施を歓迎する」と述べた。3カ国の首相による会合は、来年はブラチスラバ周辺で開催される予定である。

◆ライチャーク外相の米国訪問（1月29日）

ライチャーク外相は、ホワイトハウスにおいてバイデン副大統領と会談し、ウクライナ危機に関するスロバキアの見解を説明した。ライチャーク外相は、「会談のテーマはウクライナ情勢であった。米国はウクライナ東部情勢への懸念を表明しており、解決に向けて欧州のパートナーの意見を聞きたいと考えている」と述べると共に、バイデン副大統領のウクライナ問題への関心の高さや理解の範囲を高く評価した。ライチャーク外相は、30日には大西洋評議会とEU議長国のラトビアが主催する会議においてウクライナ及び東方パートナーシップ諸国の情勢について議論した。訪問の最後には、ライス国家安全保障担当大統領補佐官と会談を行った。

社 会

◆犯罪発生数の減少（1月21日付経済新聞）

2014年には殺人、車両の盗難、傷害等が減少した。警察の最新の調査によると、昨年は、この20年で最も治安の良い1年に数えられ、殺人の数は1993年の独立以降で最も少なかった。他方、殺人事件の検挙率は64%と過去最低

であり、専門家は警察機構の度重なる変更が反映されていると指摘した。最も治安の良い地域は、Banovce na Bebravou 及び Partizanske であった。なお、犯罪発生数が最も多いのはブラチスラバ及びコシツェであった。

経 済

◆フォルクスワーゲンによる新工場の建設計画（1月14日付スメ紙）

スロバキア最大の自動車メーカーであるフォルクスワーゲン・スロバキア（VW）は、5億ユーロを投資して、ブラチスラバ工場に新たな溶接工場を建設する。工事は今春に始まり、2年後に完成する。VWの広報担当によると、新工場では、作業ロボットの数が100から400に増えるため、ロボットの運用及び維持に必要な機械工学等の知識が、従業員に求められるようになる。新工場は、生産台数を増加させ、現在は溶接のできないアルミ製部品の溶接も可能にする。生産能力はSUVモデルで1日1100台となり、年間では35万台に達する見込みである。工場建設は、独VWグループがブラチスラバにおいて長期的計画を有し、世界全体でのSUVモデル生産の中心と見なしていることを示している。

◆中国系銀行の支店開設を巡る動き（1月20日付スメ紙）

フィツォ首相は、中国からスロバキアへの投資促進の目的で、中国の主力銀行の支店開設を提案しているが、スロバキア中国商工会議所のファルカシュ氏は、当面、現実的なものではなく首相自身の希望に留まると見ている。但し、ファルカシュ氏は、中国がスロバキアに支店を開設する可能性はあると主張しており、開設される場合には、手続きが煩雑な投資銀行ではなく、商業銀行であると指摘している。また、同氏は、支店開設によって、起業への融資、中国からスロバキアへの直接投資の機会が高まると考えている。支店の開設については、スロバキア銀行協会も、スロバキア経済の活性化という観点から、市場への新たなプレイヤーの進出を前向きに捉えている。

◆モホウツェ原発新規原子炉の建設状況（1月20日）

パヴリス経済相は、伊Enel社の示した工程表に沿って建設作業が進捗しているかどうかを確認するためにモホウツェの建設現場を訪れた。モホウツェの原子炉新設に関しては、工事の進捗状況を正確に把握し、工事をより円滑に進めるための監督措置が講じられていた。スロバキア電力会社のダグネス社長は、「建設作業は大幅に進捗し、ケーブルの敷設及び制御室の設置が始まっている。本年半ばには原子炉内部の組立を開始するであろう」と主張した。現在、第3原子炉は約82%が完成しており、2016年11月には商業運転を開始する見込みであり、第4原子炉はその1年後と見られている。

◆スロバキア中央銀行月報（1月）

1. GDP

ユーロ圏の統計によると、2014年第4四半期もユーロ圏経済が緩やかな成長を続けている。スロバキアでは11月の売り上げは前期比で伸び悩んだ。国内商業部門の売り上げが伸びた一方で、鉱工業の売り上げは減少した。11月の鉱工業生産は前年比で3.3%減少した。主に輸送機器及び電機製造が停滞し、金属生産及び最近数ヶ月の石油製品生産の伸びも、鉱工業生産全体のプラス成長を維持させるには到らなかった。2014年の自動車生産は前年比1.8%減と若干の減少に留まり、前年から引き続いて概ね安定していた。

2. 雇用率及び賃金

11月の雇用率は前年同期比で1.8%の上昇となり、前期比での伸びはほぼ0%であった。鉱工業及び建設部門において前期比での雇用率下落に歯止めがかかった。12月の失業者数は前月比で約3300人減少し、季節調整前の登録ベースでの失業率は12.29%であった。11月の平均賃金の伸びは前年比で顕著な加速を示し、2.6%に上昇した。主に、商業、建設及びIT通信部門が伸びに貢献した。11月の平均名目賃金は905.4ユーロであった。

3. 物価

2014年の平均物価上昇率は-0.1%であった。12月の消費者物価指数は前年同期比で0.1%の下落（11月は0.0%）、前月比では0.3%の下落であった。エネルギーを除く鉱工業製品、いわゆる「クリスマス商品（家電、自動車等）」の価格上昇の鈍化が前年同期比での下落に影響した。エネルギー価格の前年同期比での下落は、原油価格の動向が燃料価格の下落をもたらすため、2015年も続く見込みである。

4. 貿易

11月の輸出は前期比で0.8%増となった。輸出が生産を上回るという比較的まれな現象が見られ、輸出企業は、輸出が生産を下回っていた期間に蓄積された在庫を減らすことができたと考えられる。輸入は実質で前期比1%増となった。小売チェーン向け輸入が増加を後押しした。中間財としてのエネルギー及び製品の輸入は引き続き減少した。11月の貿易収支は、名目で4億3160万ユーロの黒字となり、2014年全体では過去最高となる見込みである。名目の商品輸入は前年同期比で9.7%減少し、商品輸出は6.5%減少した。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

